

## 学校評価について

### はじめに

令和2年度の学校運営においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年度当初は学校の休業をせざるを得ない状況となった。学校行事や地域等との交流は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、中止や規模縮小の対処を実施した。また、講義については、オンライン授業の導入を早急に変更し対処した。実習については、受け入れ施設の指示に基づいて、1看護単位での実習生の人数の縮小、実践活動外学習の効果的活用によって対処した。

今年度計画していた運営方針については、新型コロナウイルス感染症の影響で、目標達成できなかった事項があった。

### <自己点検・自己評価>

1. 「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書（平成15年7月25日）をもとに、全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した、「自己評価書」を用いて、教職員が自己点検・自己評価を実施する。
2. 自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化する。
3. 改善点について、具体的な計画を立てて取り組む。
4. 再度、「自己評価書」を用いて、教職員が自己点検・自己評価を実施し、取り組みの成果を明確化する。

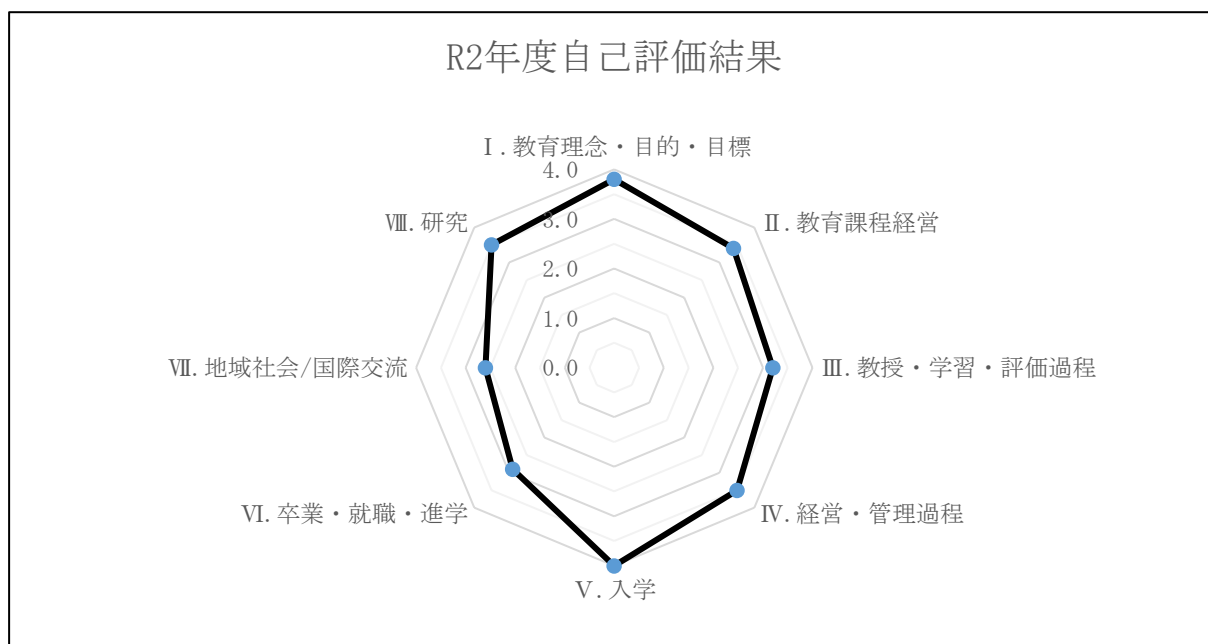
### <評価内容>

1. 「自己評価書」は、【Ⅰ. 教育理念・教育目的・教育目標】【Ⅱ. 教育課程経営】【Ⅲ. 教授・学習・評価過程】【Ⅳ. 経営・管理過程】【Ⅴ. 入学】【Ⅵ. 卒業・就職・進学】【Ⅶ. 地域社会/国際交流】【Ⅷ. 研究】の8領域、129の評価項目から成る。
2. 評価基準は、〈4. 当てはまる〉〈3. ほぼ当てはまる〉〈2. やや当てはまる〉〈1. 当てはまらない〉の4段階評定である。

### <評価結果と課題>

1. 評価日：令和2年12月24日（火）～令和3年3月5日（金）
2. 評価者：副学校長、教育主事、教員

3. 評価結果：



年度別平均点 評価内容（領域）	R2 年度	R1 年度	
	自己評価	自己評価	学校相互評価
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3.8	3.6	3.8
II. 教育課程経営	3.4	3.5	3.6
III. 教授・学習・評価過程	3.2	3.2	3.4
IV. 経営・管理過程	3.5	3.5	3.6
V. 入学	4.0	4.0	4.0
VI. 卒業・就職・進学	2.9	2.9	3.1
VII. 地域社会/国際交流	2.6	2.9	3.2
VIII. 研究	3.5	3.5	3.8

#### 4. 各領域の結果と今後の課題

##### I. 教育理念・教育目的・教育目標

- ・教育理念の基本精神は「智慧」「創造」「誠実」であり、簡潔で学生にとってもわかりやすい言葉であり、学生の学習活動、教職員の教育活動を導くものである。
- ・教育目的は、本校の役割、特徴を示している。
- ・教育目標は、教育理念・教育目的を具体的に示しており、学生に対する教育実践を教職員が共通認識でき、学生にとっても教育の内容が理解できる。
- ・昨年度課題であった入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）、卒業認定の方針（ディプロマポリシー）を明確にしている。

##### **【課題】**

- ・R4年度からカリキュラム改正となるため、新カリキュラムを踏まえ検討していく必要がある。教育環境を含めた教育方法の明示、教育目的・教育目標の評価に対する考え方の明文化について検討する。

##### II. 教育課程経営

###### 〈教育課程経営者の活動〉

- ・教育課程編成は、意思決定機関である学校運営会議や教員会議での検討により構築され、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。

###### 〈教育課程編成の考え方とその具体的な構成〉

- ・「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に基づき、教育理念・教育目的から具体化した教育目標を達成させるための教育内容を明文化している。

###### 〈科目、単元構成〉

- ・「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」に基づき、教育理念・教育目的・教育目標から教育内容を抽出し、看護師を養成するための適切な科目設定ができています。

###### 〈教育計画〉

- ・単位履修の方法については、学則、履修規程、学生便覧等において、単位履修の方法や単位認定についてわかりやすく明示している。

###### 〈教育課程評価の体系〉

- ・単位認定については、学則、学則細則、履修規程で明文化し、他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。教育課程を評価する体系については、学生からの評価、教員の自己評価、卒業時の学生によるカリキュラム評価、自己点検・自己評価、学校相互評価、学校関係者評価を実施している。

###### 〈教員の教育・研究活動の充実〉

- ・教員の専門性が発揮できるように、教員の担当する科目と時間数の配分に留意している。教員の成長のための自己研鑽システムや相互研鑽システムに取り組んでいる。

〈学生の看護実践体験の保障〉

- ・臨地実習においては、教育に対する考え方を明示し、実習指導者と教員の役割分担を明確にし、学生の学習保障が得られるよう、協働して実習指導を実施している。

【課題】

- ・教育理念を反映して教育課程を編成していることの根拠、教育目標と教育内容の関連、教育内容に対する考え方の根拠、教育課程全体の構築における教育内容の位置づけ、単元の根拠、学年別目標、指導方針に基づき、学習・教育観と学生観を踏まえ、教科科目、教科外活動を設定して運営していることを明文化していく。
- ・科目間の関連の図式化や科目構成・配列の根拠について明文化していく。
- ・臨地実習に関する倫理規定、患者の権利を守るための内容の明記について検討する。

### Ⅲ. 教授・学習・評価過程

〈授業内容と教育課程との一貫性〉〈看護学としての妥当性〉〈授業内容間の関連と発展〉

- ・教育理念、教育目的、教育目標との関連から、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野についての考え方を明確にして、授業内容のまとまりを考え科目構成をしている。
- ・カリキュラムデザインは、基本から応用へ、単純から複雑へ、個から集団へ、健康維持から健康障害・健康回復へと進むことができる構成にしている。

〈授業の展開過程〉

- ・講義については、指導案を作成し、指導目標、授業の進め方など指導技術に対する考え方を明示し、授業評価を行いながら工夫・改善をしている。
- ・学内での研究授業や公開研究授業を計画的に実施しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施できていない。
- ・技術演習や技術チェックにおいては、教員間の連携が取れており、評価会を通して教育について考えることができています。
- ・教科外活動では、目標を提示し、学生の学習を深化・発展させるものとなるよう計画していたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施できていない。

〈目標達成の評価とフィードバック〉

- ・評価、単位認定については、履修規程・シラバス・実習要項に明示し、学生が単位修得する上での指標になっている。
- ・評価方法には様々なものを取り入れ、専門職としての学生の成長に効果がある評価を公平に実施している。公平性についても問題はない。
- ・臨地実習においては、実習に向けた自己の目標と課題、中間・最終ふりかえり記録を各自のポートフォリオにファイルし、学生が自己の課題を見出し自己成長できるように支援を行っている。

〈学習への動機づけと支援〉

- ・シラバスや実習要項を学生に配布し、説明することによって学生がこれらを活用しているため、学習の動機づけや支援はできていると考える。

【課題】

- ・各分野の関連性、各領域のまとまりの考え方と関連性、各科目の教育課程上の位置づけ、他の授業内容との重複や整合性について、明確に記述する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえ ICT 環境を利用することをさらに発展させていく。
- ・今年度中止となった教科外活動は、次年度、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながら進めていく。
- ・授業評価の結果の学生への公表、教員のポートフォリオの活用方法、科目目標の評価に対する考え方の明文化である。

IV. 経営・管理過程

〈設置者の意思・指針〉

- ・国立病院機構病院の附属養成所として、独立行政法人国立病院機構年度計画（平成2年度）と母体病院の運営方針に基づいた看護学校の運営方針と両者を達成させることができるよう取り組んでいる。

〈組織体制〉

- ・権限や役割機能、意思決定システムを示し、教職員は理解した上で学校運営をしている。

〈財政基盤〉

- ・当校の財政基盤、収支状況については、教員会議において説明を受け、教職員は理解している。学校として安定した財政基盤を得られるよう、より多くの受験生を確保する必要性と経費削減の必要性についても理解している。

〈施設設備の整備〉

- ・施設整備については、老朽化に伴い修理を必要とすることが多くなってきている。
- ・教材・教具、図書の本整備については、科目目標を達成するために、医療・看護の発展や学生数の変化に合わせて優先順位を検討し計画的に購入している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止において、Web 会議やオンライン講義を行うにあたり、インターネット環境の整備を順次実施している。

〈学生生活の支援〉

- ・学生が入学後に安心して学習を進められるよう、入学時にはオリエンテーション期間を設けてオリエンテーションを実施している。
- ・奨学金制度をはじめとして、カウンセリングの利用促進など、学生が安心して学業に専念できるような支援を行っている。
- ・教員は、学生個々の背景を考え、日頃の会話の中から学生の困り事を把握し、随時相談できるようにしている。

〈養成所に関する情報提供〉

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、行事が中止や縮小開催となったため、例年通り情報提供することが難しかった。しかし、教育の取り組み状況について可能な範囲で、ホームページに記事を掲載することはできている。

〈養成所の運営計画と将来構想〉

- ・国立病院機構の中期計画、年度計画を踏まえ、学校の運営方針に盛り込み、具体的な教育活動につなげている。

〈自己点検・自己評価体制〉

- ・自己点検・自己評価規程、自己評価における評価の視点に基づき、教職員で運用している。
- ・第三者による学校関係者評価は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、評価委員に資料送付し、結果をホームページに掲載している。

【課題】

- ・教員の実務研修については、臨床と相談した上で可能な範囲で計画して実施できるよう検討する。
- ・学校経営においては、受験生の確保と経費削減が重要であるため、現行の見直しと改善策を検討していく。
- ・施設設備の整備においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえながら、新カリキュラムにおける ICT 活用能力育成のために、インターネット環境の充実させていく。
- ・防災マニュアル、学生の暴言・暴力やアカデミックハラスメント等、学校で発生する危機に対する管理について、規程やマニュアルを整備していく。
- ・学校の情報については、タイムリーに、積極的に公表していく。
- ・学校の評価については、自己点検・自己評価、学校相互評価、学校関係者評価の体制が整っているため、評価結果をもとに学校運営における課題を解決していく。

V. 入学

- ・入学試験に関する規程にそって、本校の理念である「智慧」「創造」「誠実」に基づき国立病院機構及び社会に貢献できる人材を育成するという教育目的を実現するために、入学者選抜方法や評価について、公平性や妥当性を確保・維持している。
- ・オープンカレッジは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、保護者の参加を中止するとともに、各高等学校の参加可能人数を過去の参加実績をもとに、高等学校別に参加人数を限定して実施した。
- ・高校訪問は、コロナ禍で許可を得た香川県・徳島県・愛媛県の高等学校のみ訪問した。

【課題】

- ・オープンカレッジについては、質の高い学生確保ができるよう、受験生のニーズに合わせた実施回数、実施時期の検討など、アンケートを分析しながら実施していく。
- ・高校教諭、保護者、社会人を対象とした学校説明会を検討し、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を確認しながら実施していく。

## VI. 卒業・就職・進学

- ・看護師国家試験については、3年間の国家試験対策計画に基づき教育しており、Moodleを用いた模擬試験の実施、積み上げてきた国家試験の分析方法の構築により、国家試験対策を強化している。
- ・学生の就職、進学への支援については、過去の就職、進学の結果を活用しながら、学生個々に合わせて指導しており、1年次の早い段階から進学・就職を意識できるよう、継続して関わっている。

### **【課題】**

- ・卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等について検討し、在学中の教育内容が現場で必要とされる実践能力の基盤になり得ているか、把握していく必要がある。

## VII. 地域社会／国際交流

### 〈地域社会〉

- ・例年、母体病院の行事や学校行事、ボランティア活動、高校訪問や進路相談会を通して、当校から意図的に関わり把握しようと努力している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために活動は実施できなかった。

### 〈国際交流〉

- ・国際的視野を広げるために、母体病院が開催しているアジア国際小児医療学会（AMCCH）への学生参加を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために学会が中止となり参加できなかった。

### **【課題】**

- ・留学生受け入れについては、指定規則上、体制を整備していくことは難しいが、どのように検討を進めていくべきなのかを考えていくことも必要である。

## VIII. 研究

- ・研究については、令和2年度運営方針の中で掲げ、研究活動に取り組むことの意識づけをしている。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために学会が中止やWeb開催になる状況であった。その中で、第74回国立病院総合医学会（Web開催）で2題発表し、中国四国地区国立病院附属看護学校紀要へ1題投稿することができた。

### **【課題】**

- ・勤務時間内に研究活動時間を定期的に取得できる体制を整えていく。
- ・研究課題の明確化のためのクリティークに対する知識強化、研究課題に見合う文献検索、確実な研究計画書作成など、研究に関する知識が深められるよう教育していく。